

遺跡から出土する金属製品には、鉄製品・銅製品・金銀製品がありますが、どんな素材で造られているのか見た目ではわからないものもあります。

そんなときは、科学的な分析によって素材を調べます。



出土品の素材を調べる

けいこうえつくすせんぶんせき

蛍光X線分析とは、物質にX線を照射することで、試料中に含まれる元素量の測定を行う分析法です。

良田平田遺跡の鉈尾(ベルトの金具)はサビもなく、銀色に輝いていました。金銀製のベルトは五位以上の貴族や国司などしか身につけることができず、出土例も少ないことから、蛍光X線分析を行ったところ、銅製品とわかりました。

このように科学的な分析は、歴史を明らかにするための有効な手段となります。



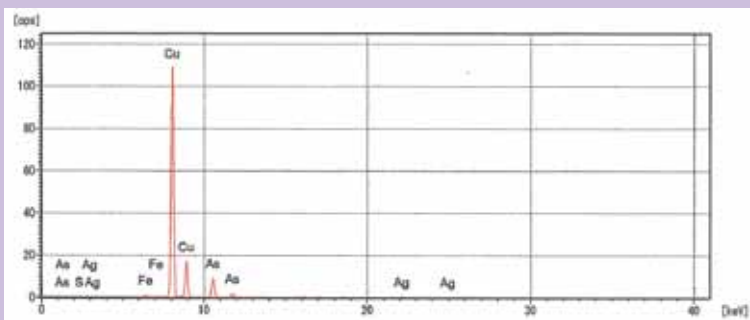
わしも早く出世して、金製や銀製のベルトを身につけたいものじゃ。



良田平田遺跡出土鉈尾 ▲

蛍光X線分析装置 ▶

(協力：鳥取県産業技術センター)



グラフ中の元素記号は、As：ヒ素 S：硫黄 Ag：銀 Fe：鉄 Cu：銅

▲分析結果をみると、全体質量の約77%を銅(Cu)が占め、銀(Ag)は0.18%しか含まれていませんでした。

(財)鳥取県教育文化財団
調査室

美和調査事務所

〒680-1133

鳥取市源太12番地

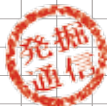
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL：0857-51-7553

FAX：0857-51-7550

メールアドレス：

matsuik@pref.tottori.jp



鳥取県立博物館の「歴史の窓」コーナーで良田平田遺跡の速報展を開催します。今回ご紹介の鉈尾や木簡をはじめ、貴重な出土品が展示されます。ぜひお越しください。

展示期間：2月28日(火)～4月1日(日)

(3月21日(水)、26日(月)は休館日)

※遺物保護の関係上、木簡の展示は3月4日(日)まで

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

いなほのくに
古代の因幡国の地名・人名を
 もっかん
記した木簡を発見！

よしだ ひらた れきみょうもっかん
 ～良田平田遺跡出土「歴名木簡」について～

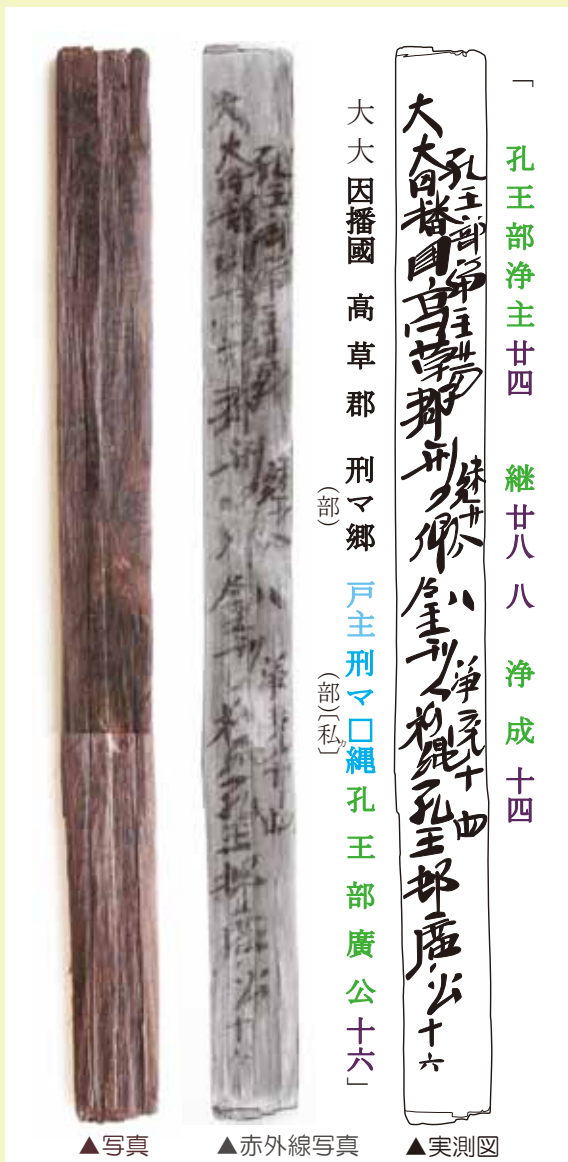


昨年11月で発掘調査を終えた良田平田遺跡の出土遺物について、整理作業を進めていたところ、平安時代前半（9世紀後半～10世紀初め）の**もっかん**木簡に、当時の地名や人名などが記されていました。

肉眼で全ての文字を解読することが難しかったため、赤外線カメラで撮影したところ、書かれた内容がわかりました。



木簡は掘立柱建物の柱穴から出土



これは「歴名（れきみょう・れきめい）木簡」と呼ばれている、記録を目的とした帳簿のようなものです。国（因幡国）・郡（高草郡、旧鳥取市の千代川左岸一帯）・郷（刑部郷）と、戸籍主（戸主）の姓名（刑マ）、同じ戸籍と考えられる4人の姓名（孔王部・・・）、さらに年齢もしくは物品の数量を表わした数字が確認できました。

因幡国に“刑部”姓をもつ人物がいたことは平安時代の記録にありますが、“孔王部”姓をもつ人物の存在は初めてわかり、新しい発見となりました。

また、これまでの研究では、良田地域が高草郡にあった8つの「郷」のうちどの郷に属していたのかは不明でした。この木簡によって、良田地域が「刑部郷」に属していた可能性があり、郷の範囲や境界を明らかにしていく上で貴重な発見となりました。

- ※黒色……地名（国・郡・郷）
- 青色……戸籍主姓名
- 緑色……戸籍主と同一戸籍と考えられる人物の姓名（または名のみ）
- 紫色……数字

木簡の大きさ 長さ 39.9 cm、幅 3.4 cm、厚さ 0.9 cm